

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300058		
法人名	医療法人社団 大治会		
事業所名	グループホーム おおぞら		
所在地	岐阜県加茂郡八百津町錦織1530番地39		
自己評価作成日	平成25年6月10日	評価結果市町村受理日	平成25年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300058-008&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営するグループホームの為、医療機関との連携がスムーズにとれており、利用者様の持病の悪化防止はもとより、急変時でも24時間すぐに対応がとれる体制になっています。利用者様が落ち着いて普通の生活が送れることを第一に考え、ホーム内での生活が窮屈にならないよう気楽で安心して頂けるよう、利用者様個別に心理状況を理解することに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来、管理者を始め、職員の入れ替わりが無く、利用者職員は馴染みの関係となっている。利用者は入居以来、少しずつ認知度が進み、身体の重度化も進んでいる。口から食事が出来なくなったり、点滴が必要になった時は、他施設へ移ることを契約時に同意を得ているが、利用者や家族の一番の望みである「笑顔で、人生を全うするまで元気に過ごすこと」をスローガンに掲げ、職員一丸となって、心身の活性化と機能低下の予防、遅延化に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔で毎日過ごされるよう工夫しながら援助し、利用者様と職員が協力しながら元気で毎日過ごすことに感動している。馴染みの方が多くお訪れ地域の中で安心した生活ができている。	「笑顔・工夫・感動・心」の理念に基づき、職員間で話し合っ作ったスローガン「人生を全うするまで元気に過ごす」を、職員一人ひとりが共有している。事あるごとに、利用者や家族に伝え、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会している事もあり、今年初めて消防訓練の時に地域の総会に出かけ参加を呼び掛け、当日多数の方が参加された。また地域のボランティアさんをお願いして敷地内の畑を管理して頂いて、休憩のときなどお茶を出しながら交流している。	事業所に立ち寄る近隣者が以前より多くみられるようになった。職員が積極的に地域の集会等で働きかけ、なお一層地域に溶け込んでいく計画をしている。ボランティアや中学生との交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、町職員の方などに地域で認知症の方の理解や支援方法を話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を受け地域住民や消防団に消防訓練に参加して頂いた。また利用者の方にも2回程運営推進会議に参加していただいた。	行政の参加に合わせ、平日、家族、近隣の住民等が参加して隔月に開催している。前回の振り返り、事業所の現状を伝え、転倒予防への取り組み等を報告して意見を聞き、サービス向上に活かしている。	多くの家族が運営推進会議へ参加できるように、開催曜日等について家族の希望を聞き、行政や関係者で調整を図ることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月町の担当者に、運営状況を報告している。また運営推進会議には必ず町福祉課職員が出席し、運営状況以外にも地域高齢者の状況や福祉関係についても話し合っている。	行政の窓口へこまめに足を運び、利用者の介護度の状況を伝えている。また、地域の独居者について情報を得る等、双方の情報を交換し、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などは常々職員間で話し合い身体拘束排除に努めているが、やむを得ず利用者様の生命や身体が危険にさらされる危険性が著しく高い場合は最小限の身体拘束に止める。玄関は毎日解放にしている。	職員、利用者共に入れ替わりがほとんどなく、一人ひとりの利用者をよく知り、外出願望を止めることなく、見守りやコミュニケーションを図りながら、対応している。身体拘束をしないことを職員間で確認し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は研修などで学んでいることもあり、あり得ないことと捉えているが、入浴時等身体に少しでも異変があれば、その場ですぐに管理者に報告が来るようになっている。		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度を活用してみえる利用者様はみえない。以前町が実施した成年後見人制度の研修を職員が数名受講した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時に、家族や利用者様には当事業所の理念やご利用料金など紙面を用いて説明し納得して頂いている。入居されてからでも介護報酬の改定があれば書面を用いて説明し、体調が悪化してくればその都度話し合いをもっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話等で運営に関することからホーム内での様子など話しあっている。また家族等の意見があれば、毎日のカンファレンスや会議を通じて職員に周知徹底している。	担当職員が月1回、きめ細かな近況報告書を家族に送付し、面会時や電話でも、意見や要望を聴いている。運営推進会議に参加した家族が「自治会総会へ防災訓練への参加」を提案したところ、事業所の防災訓練に多数の住民が参加することが出来た。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議では、職員からの意見を聞いている。またミーティング等にも意見交換し、職員間で介護の深みを追及し働く意欲や質を確保している。	月に1回、全職員参加による会議を実施している。拒食者には「味ご飯」をとの提案や、ご飯の固さ、席順等、現場の職員ならではの気づきや意見があり、柔軟に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者に週1回ホームの運営状況を聞いている。職員は離職することも無く、向上心を持って仕事をし毎年各資格試験にチャレンジしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日のミーティング等で管理者がスーパービジョン等で、職員が目の前の問題等に取り組み働きながら質を高めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内には他にグループホームはないが、管理者は他法人の同業者と月に1回は交流して仕事の行き詰まりの悩みの解消や介護保険の流れなど相談し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階は本人がどの程度の悩みの深さや不安の大きさが分からない為に、可能な限り本人に寄り添いコミュニケーションをとることに努め、少しでも早く信頼関係を築き、安心して生活が送られるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階は、家族の本人に対する思いや悩みに耳を傾け、当事業所での取り組み方を話しながら、本人と家族の安心できる生活がケアプランになり実践し、それによって家族との信頼関係が築けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階の相談から、本人家族に何が必要かをみつけだし、優先順位を考え徐々に馴染んでもらい安心して生活が送れるように考えて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が迷惑をかけていると思われないように、さりげなく介護し、家事なども職員と利用者様になるべく一緒になってしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人との疎遠にならないように近況報告や電話等で連絡し、年一回は家族会を開き家族と職員の役割を話し合い、相互で本人を支えあう事を確認している。また全員で遠出する時など一部の家族に協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は家族の方以外でも訪れて来られる友人の方に積極的に再度来られるよう促し、隣のデイケアや老健を利用してみえる顔見知りの方の所に行かれる事がある。	近隣からの利用者が多く、気楽に知人が訪ねている。ドライブを兼ね、馴染みの通りや景色を眺め、知人と出会い、挨拶を交わしている。個別の馴染みの店や墓参等は、家族の協力を得て支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様で孤立しそうな方は、話が合いそうな方の横に席を設けたり、カルタやトランプのレクや掃除洗濯等の家事を支えながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った方がいないが、利用が終了した方がみえれば、その方の支援や相談に応じる事は、当然のことと認識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個別にその方の思いに添うようにはいつも考えている。又思いを訴えられない方には本人の立場になって考えたり話しやすい環境を作る。また家族から生活歴などを聞いたりしている。	日々の会話や、何気ない話、表情、仕草等から、利用者の思いや生活歴を把握している。気づいたことは全職員が申し送りやミーティングで共有し、在宅での普通の暮らしに少しでも近づけるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が入浴等話しやすい環境の時にさりげなく生活歴を聞くことが多々ある。また家族が来所された時も少しづつ話を聞いてそれをミーティング等で全職員に伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事やアクティビティ等をしながら、出来る事分かる事等の本人の力を引き出すように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は心身の変化が無くとも定期的に見直し本人や家族の思いに添って計画している。職員はそれをもとに家族に近況報告書を作成し、その方のケアのあり方の気づきを考えている。	家族や利用者とは話し合い、職員の気づき、医師や看護師からの意見等を反映し、普通の暮らしができる計画を作成している。会議やミーティングで、本人の状態を検討し、家族の意見を聞いて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はその方の一日の行動や訴えなどの他バイタルチェックや排泄食事摂取など、記録し心身の変化に留意している。それをもとに介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の状況や利便性を考え訪問診療を取り入れている。管理者と医師は密に連絡を取りその方の持病悪化防止やADL悪化防止に努めている。又隣接のデイケアのリハビリ機器を活用している		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに買い物に出かけたり、畑の作業をしてもらえるボランティアさんや歌や踊りのボランティアさんと交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が同法人の病院の医師がかかりつけ医だったこともあり毎週訪問診療にみえている。常勤看護師と毎週密に連携しているので、体調の少しの変化にも対応が出来る。	法人の医師が、週に1回往診している。耳鼻科や眼科等へは家族が付き添っている。常に、常勤の看護師や職員と連携し、医療面でも安心して暮らせるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が毎日のバイタルや食事摂取量、排泄管理を行っており、介護職員から夜間の様子等の報告を毎日受けている。看護師は利用者様の急変や事故などにもすぐ対応できるよう医師と連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された方は一人みえたが、透析で通院をされていた方だったので入院前から連絡ノートや電話などで情報交換していたりして関係作りは出来ていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は介護で対応できるまでは出来る限り入居してもらい、同法人の医師が判断し法人内の病院に移ることを、契約時に家族に説明し納得していただいている。又家族には時折体調の報告をしながら重度化した場合の説明をしている。	口からの食事が不可能になった時や要点滴時を他施設へ移行する目安としている。方針は、契約時に説明し、同意を得、家族会等でも随時伝えている。スローガンに掲げているように、最期まで、できるだけ長く過ごせるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはすぐに常勤看護師に連絡が行くようになってきている。また職員会議の中でアクシデントレポートの報告の1件ごとに、非常時の初期対処の方法を説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災専門の会社と契約し、今年は利用者様と地域住民の方と5月に防災訓練を行った。施設周りとはとても広く避難場所は多い。	地域との協力体制作りが課題となっていたが、自治会の会合に参加し、協力を呼びかけたところ、大勢の住民の参加を得、防災訓練を実施することが出来た。災害時の利用者見守りの援助等を地域住民に依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の生活歴や性格などから、その方のプライドを傷つけないよう、声かけや接し方に留意している。長い事入居されてる方と慣れ合いになりがちなので、その方の心の少しの変化を毎日のミーティングで話し合い、孤立しないよう又トラブルに発展しないように留意している。	介護者、利用者共に馴染みの関係となり、何気なく発している言葉や対応が利用者の尊厳を傷付けていないか場面ごとに振り返り、申し送り等で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別でその方に重みにならない支援を心掛け、意志表示できない方には表情しぐさで職員が気づける様に心がけている。入浴時等の着替えを選んでもらったり、気分転換したい方など散歩に自ら行かれるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のスケジュールは概ね決まってはいるものの、各利用者様の状況や都合により食事の時間、就寝時間等は当然変わり、職員の休憩時間もそれに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選ばれる利用者様も少なくない。理美容は施設に出張にくる業者にカットしてもらっている方がほとんどだが、事細かく好みを本人職員が伝えている。化粧をされる方やほとんどの方がマニキュアなどされる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食形式だが、利用者様と職員と一緒に盛り付けをして同じテーブルで食事している。おいしく食事ができるように、畑で収穫したネギやナスなど利用者様が刻んでくれたり調理したりしている。	利用者の多くが包丁を持ち、ジャガイモの皮むきをしている。毎月1回、法人の給食改善委員会があり、利用者の好みなどを伝え反映している。手作りケーキや赤飯作りも取り入れ、職員も利用者と一緒に同じものを食べ美味しさを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はほとんどの方が全量摂取されているが、食欲の無い方にはふりかけをかけたり味噌ご飯にしたり、おやつにお好み焼きなどする時がある。また水分もお茶だけではなくいろんな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後全員の方が行うようになってきている。皆さん義歯なので毎晩ポリデントに浸している。		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、誘導している。その日の体調によって失禁も時々される方もみえるが布パンツにパッドで昼間も夜間も過ごしている。	排便、排尿の失敗をして落ち込むことがないよう、一人ひとりの排泄パターンに応じて誘導している。入居時、安心パンツを着用していた利用者も、多少の失禁はあるが全員が、昼夜共に布パンツとパッドで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分摂取や運動等で予防している。整腸剤を日々量を変えることによって便秘を解消し、浣腸や下剤を使用している方はみえない。また排便反射や腹圧をかけることを常勤看護師が介護職員に説明し行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は出来る範囲で頻回に入られるようにしている。入浴の準備から終了まで職員が一人に対応し、個浴なのでゆったりとくつろげる雰囲気留意している。	入浴は、職員と一緒に着替えを準備したり、1対1で会話をしながら、楽しくゆったり入れるよう対応している。入浴したい日や時間等は、利用者の希望に合わせて支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が昼間はリビングで過ごされている為か、夜間は概ね安眠されている方が多く、昼夜逆転の方は少ない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬の説明書は個人のカルテに綴ってある。変更時は看護師が連絡ノートと口頭で伝える。投薬時は必ず職員が声をだして名前を読み飲み込むまで確認してチェック表に記入している。飲み忘れや誤薬は全くない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった楽しみ事や、やりがいを探して、家事やアクティビティを考えている。野菜の水撒きや家事で本人の役割を見い出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に法人の外周などの散歩を支援したり庭の東屋でお茶を飲んだり休憩したりしている。年に何回かは全員で遠出し家族の協力なども受けている。	事業所周辺は広く、東屋やベンチ、テーブル等、休憩する場が設置され、利用者同士でも散策できる程良いコースとなっている。法人の車で家族の協力を得、パラ園や紅葉見物に出かけている。	

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	あらかじめ家族と相談して、小遣い銭を事務所で管理し、そこから外出などの食事や個人的に必要なものを払っている。個人的に小額を家族からもらい自分で管理されている方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が希望されれば使用可能だが、ほとんど希望されない。手紙も要望が無く年賀状も書かれる方はわずかしかない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが作られた折り紙やカレンダーなど各部屋や廊下に飾っている。また散歩等で摘んできた花も飾ってある。各部屋入口は暖簾で個性をだしている。利用者様が作成したちぎり絵などを額で飾り来客に利用者様が自慢してみえる。	玄関を入ると、ちぎり絵等、利用者の作品や七夕飾りが心を和ませ、広い廊下が木の温もりを感じさせる空間となっている。居室入口の暖簾は涼しさと、プライバシーを守り、ソファの並べ方を変える等、利用者が落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活が窮屈にならないように、一人で散歩に出かける方もみえ、隣接する老健に出かけてみえる。2, 3人でリビングのソファで寛がれる方もみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には慣れ親しんだ物や写真など持ってみえる方もみえ、自分で作った作品も飾ってある。	居室の床に取り外しができる畳を敷き、持参したものを活かしてテーブル代わりにし、趣味の作品作りをしている。家族の写真や持参した小物等を見やすく、使いやすく配置し、居心地良く、安心して過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にネームプレートは無くドアの取っ手の色やのれんで個性を出し、トイレもピンクのドアで迷わず行けるようになっている。廊下は歩きやすいよう物を置かないようにしている。		